

議員（隅岡 美子）

11番、隅岡 美子、順次、一般質問をさせていただきます。

一問一答方式でよろしくお願い致します。

1点目の質問は、アピアランスケアの取組についてであります。2点目の質問は、自治会等のデジタル化についてであります。

まず1点目の質問は、アピアランスケア取組について質問を致します。

私は、令和4年6月定例会におきまして、アピアランスケアについての質問をさせて頂きました。アピアランスケアとは、手術や治療が原因で起こる頭髪等の脱毛や皮膚の爪の変形、手術の傷痕など外見の変化に起因する患者の苦痛を軽減するケアのことです。その時のご答弁は、次のとおりでありました。令和3年度では、特に乳がん検診については、47名が要精密検査の対象となり、4名のがん患者が発見されております。町内でも、まだ周知はされておられません。このことについて取り上げるという機会が今のところはありません。今後、患者さん方のお話を聞いたりする場を設けながら、勉強していきたいと考えております。町ホームページ、広報で色々と町民の皆様に周知していきたいと考えております。と、このようにご答弁をされております。そこで、お伺い致します。

1つ目、実際に患者さんのお話を聞いたり、アピアランスケアについて研鑽をされたのでしょうか。よろしくお願い致します。

町長（丸尾 幸雄）

隅岡議員の患者からの聞き取りやアピアランスケアの研鑽についてのご質問に答弁をさせていただきます。

令和4年6月定例会におきまして、議員のおっしゃるとおりの内容で答弁をさせて頂きましたが、乳がん検診でがんが発見された方は、その後3名増え、7名となっております。患者さんとの対話の場につきましては、集団での勉強会等の開催は出来ておりませんが、過去に罹患された方にお話を聴く機会があれば、当時のお気持ちやアピアランスケアの必要性についてお伺いし、積極的に状況把握に努めました。また、県主催の研修や総合健診協会主催の担当者会等を通して、市町間の情報収集や情報共有等で研鑽に努めております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

答弁でございました。町長のご答弁の中から質問を少しさせて頂きたいと思えます。

先ほど乳がん検診で、前回の質問させて頂いた時は4名でございましたが、その後、検診などがあったと思います。その後、3名増えて7名となっておりますというご答弁でございまして、コロナ禍を私たちは乗り越えてきて色んな検診控えとかそういったことも乗り越えてはまいりましたけれども、まだまだ検診の受診率が低いと私は思っております。それで、がん検診に対する対象者、それから検診者数、

そして、その受診率について分かる範囲で結構ですので、お答え頂けますでしょうか。よろしくお願い致します。

健康福祉課長（富木田 笑子）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

受診率と検診者数につきまして、詳しい数字は今、持ち合わせておりません。検診率につきましては、保健師が日々受診者に対して周知をするように努めております。今、細かい数字は持ち合わせておりません。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

大変申し訳ありません。また後から、よろしくお願い致します。次に2つ目の質問を致します。

2つ目の質問は、町ホームページや広報で周知をされたのでしょうか。よろしくお願い致します。

健康福祉課長（富木田 笑子）

隅岡議員の町ホームページや広報での周知についてのご質問に答弁をさせていただきます。

町ホームページや町広報誌での周知につきましては、事業を実施しておりませんので、周知は出来ておりません。しかしながら、町民に広くアピアランスケアについて知って頂くために、アピアランスケアとはどういうものか、現状や課題について掲載出来るよう早急に対応してまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

答弁でございました。本当に今、課長が申されましたように、今後、早急に。まだ実施をされておきませんが、今後、やはりこういうことが非常に大事であると共に、皆様、まだまだ周知の方がされておらないし、まだまだ、このアピアランスケアというこの言葉を、まだ、ご存じない方もいるのかなってこのように私は感じておりますので、今後、大変重要となることですので、早急に周知をして頂くように願っております。よろしくお願い致します。

次に行きます。県のホームページ公開日、2023年11月7日でございますが、調べたところによりますと高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、さぬき市、三豊市の6市。町では三木町、綾川町の2町が医療用ウィッグ、乳房補整具の購入費用の補助が受けられるようになりました。市、町ごとに対象、補助金額など制度が異なっています。補整具の種類ですが、医療用のウィッグ、これは全頭用でございます。そして頭皮保護用ネットが補助対象となっています。また、乳房、胸部であります。乳房の補装具、これは補整下着、人工乳房等が補助対象となっています。そこで、お伺い致します。

1つ目、既に私が今、言いましたように6市2町が実施をされております。本町のお考えをお伺い致します。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

隅岡議員の既に6市2町が実施していることを踏まえた本町の考えについてのご質問に答弁をさせていただきます。

前回のご質問頂いた時点では、綾川町のみであったものが、今年度11月時点では新たに6市1町ががん患者医療用補整具助成事業を開始しております。本町におきましては、今年度開始された市町の助成状況を踏まえ、令和6年度中の実施に向けて検討しているところでございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

この中で年齢制限を設けるところと、それから上限枠が2万円でございますが、綾川町だけ上限は3万円、よろしいでしょうか。確認のために恐れ入ります。確認をさせていただきます。よろしく申し上げます。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

現在の助成事業の実施内容でございますけれども、現在分かっておりますのが、先ほどの新たに加わった6市1町につきましては、上限金額が2万円、補装具購入費の3分の2というのがほとんどでございます。綾川町につきましては上限額が3万円ですけれども、補装具購入費の2分の1の補助となっております。対象年齢につきましては、年齢制限なしもありますし、20歳から39歳と区切っているところもでございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました、有難うございます。それで、質問です。

今、課長がご答弁なさいました令和6年度中の実施に向けて検討しているところでございます。という前向きなご答弁を頂きました。それで、来年度の予算ですけど何名を予定して、幾らになるかという概要で結構ですので、お伺い致します。よろしくお願い致します。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

今年度、事業実施しました丸亀市と善通寺市、近隣になりますけれども、2つの市で、申請があったのが善通寺が1件、丸亀市でも3件から5件程度と聞いておりますので、本町の人口で考えますと本町ではそれほどの申請はないのかなという風に思っておりますので、予算につきましては、新年度予算では計上しておらず、令和6年度中に実施の準備をしておりますので、もう少し他の市町も研究しながら何人分で上限を決定致しまして計上したいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

答弁でございました。次の質問に入ります。

2つ目、年齢対象を設けず、町民の皆様誰もが補助を受けられるように町のお考えをお伺い致します。よろしくご答弁をお願い致します。

健康福祉課長（冨木田 笑子）

隅岡議員の対象年齢を設けない補助に係る本町の考えについてのご質問に答弁をさせていただきます。

6市2町のうち、年齢の制限なく補助対象としている市町は4市2町でございます。本町におきましても近隣の丸亀市と善通寺市が年齢制限無しとしているため、同内容での補助対象としたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。続きまして、2点目の質問に入ります。

2点目の質問は、自治会等のデジタル化について質問を致します。

現在、人口減少と高齢化により、自治会等の地域住民の支え合いによる組織が弱体化し、地域コミュニティを維持することが難しくなっているように思います。核家族が進み、家族の支え合いの機能が低下し、孤独や孤立の問題も深刻化し、非正規雇用の増加等により、職場での家族的な繋がりも薄れるなど、私たちを取り巻く社会環境が急激に変化する中で、安心して暮らせる地域を守る自治会等の役割は非常に大きいと考えます。そこで、お伺い致します。

1つ目、自治会等の地域コミュニティの弱体化について、どのような認識を持っているのか、お伺い致します。よろしくご答弁をお願いします。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員の自治会等の地域コミュニティの弱体化への認識についてのご質問に答弁をさせていただきます。

自治会は街路灯の管理、地域イベントや活動団体の支援から児童や高齢者の見守り、防災・災害といった緊急時の対応など住民の共助による地域生活の基盤を担ってきたと考えており、今後においても地域コミュニティの活性化のために多くの世帯に自治会に加入して頂きたいと考えておりますが、近年、少子高齢化や人口減少の社会情勢の変化に伴い、本町だけでなく全国的に自治会への加入者は減少傾向にあると認識しております。このままであれば、自治会の加入者はますます減少し、住民同士の助け合いである「共助」の意識が希薄になり、弱体化が進んでいくことを懸念しております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。本当に自治会に加入している人が減少しているということは、常々この議会とか委員会でも本当に危惧をされていることとございまして、私もそのように心配しております。今本町において自治会に加入している現状というのは分かる範囲で結構ですので、お示し下さい。よろしくご答弁をお願いします。再質問です。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁させていただきます。

令和5年4月現在ですが、自治会の加入率が62.7%となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

自治会の加入が62.7%ということであります。それで今、どうして何で自治会の加入率が低いかと私なりに考えてみますと、やはり役員の当番が回ってくるとか、それから回覧板を回さないかんとか、それから資源ゴミとか不燃ゴミの当番、また、清掃などをしなければいけないとか、それから井手浚いの時に参加をしなければいけない。また、参加しない場合は、負担金を払わないいけないということで、私の考えとるところは、そういうところがございますが、認識の方は、いかがでしょうか。

議長（小川 保）

再々質問ということでもいいんですか。

議員（隅岡 美子）

はい、再質問ですけど、ちょっと質問が変な質問になって済みません。その質問は止めます。済みません。

それで今、デジタル化というので、非常に難しい問題でございます。なかなか今、自治会の方でもデジタル化というのは、私の方の自治会をやりますとか、そういった声は、やはり少ないというか、全国千何百幾ら調べたうちでも70%以上が今のところしてないです。という結果が出ております。それでデジタル化いう、難しく考えるのは当然でございますが、やはり自治会長さんとか会計とか書記さん含めてですけど、やはり高齢化を本当にしております。お一人がもう5年も10年も続けているという自治会もございます。以前、高齢者向けのアプリというのを町の広報で教室を開いたように私は記憶しとんですけど、高齢者向けデジタル講習会というのを今後、予定しておるのでしょうか。いかがでしょうか。お願いします。

議長（小川 保）

隅岡美子議員、通告の内容と微妙に差異がありますが。室長、よろしいですか。

はい。じゃあ答えて頂きます。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

先日、何ヶ月か前ぐらいだったと思うんですけども、高齢者向けにスマホ教室というのをさせていただきました。あまりスマホとか触ってない方に関しては、かなり良かったかなという感想も頂けたんですが、普段から使われとる方が高齢者の方でも多くおられまして、内容が基本的過ぎてという苦情もありましたんで、また、その教室とかをして頂く業者とかの打合せをしながら、また、その時の教室の方は無料で

して頂けたんで、出来るだけ経費がかからずに皆さんのためになる教室が出来るように情報収集とかして開催に向けて検討したいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

高齢者保険課長（松浦 久美子）

今、町長公室長より説明がありましたけれど補足して説明させていただきます。

高齢者のスマホ教室は10月18日（水）に午前中に20名の受付、午後には20名の受付で開催致しました。実際、20名+20名の受付で定員が満員になりましたけれど、実際来られたのが午前中が18名、午後が20名でありました。定員により断った方が10名ほどおりました。今後ですけれど、1月に2日ほどで合計4回の開催を検討しておりますので、また、1月の広報等で周知させて頂きたいと思っております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

大変申し訳ありませんでした。スマホ教室ということで1月に4回やるということで、やはり機械に慣れるということから拒否反応を無くしていくということが大事やなって思っております。それでこの間、私はある会合で教育委員会の方のアプリの方の関係ですけれども、教育委員会の方でしている「すぐーる」というのをこの間、私アプリをQRコードで取り入れさせて頂き、大変そのアプリが有効だし素早いし、それから、すごく助かったんです。瞬時に見れますし、状況がすぐ分かりまして、大変それ私よかったなと思って、その「すぐーる」ということについて、もうちょっと詳しく知りたいなと思ってるんですが、よろしいでしょうか。

議長（小川 保）

竹田課長、大丈夫ですか。

議員（隅岡 美子）

学校ごとに、校区ごとに「すぐーる」というのやってるんです。四箇だったら四箇、白方だったら白方で、QRコードで登録したら、その四箇小学校、そういった。

教育総務課長（竹田 光芳）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

現在、各幼・小・中学校の保護者とか緊急の連絡したい場合があった場合は、メールの方で登録して頂いてる方につきましては、メールの方で色々情報等々をお送りしておりますが、今度、隅岡議員おっしゃるようにアプリで登録して頂いて、順次、緊急な要件がありましたら、そちらでお送りするような形にしています。その「すぐーる」というアプリなんですけど、そのいいところは、日本語だけでなくて外国語にも対応しているってということと今まででしたら、添付の書類を付けることが難しかったんですが、今度アプリになりますのでPDFとかそういった形の書類、学校のお知らせであるとか、こういう所、危険な場所があるんであればそうい

った形。今回、修学旅行行った場合、学校の方から写真付きで、今こういう状況ですよというのが随時送られてくるような、そういった形の便利なソフトを使わせて頂いております。本格運用につきましては来年度からなんですけど、準備が出来た学校から順次も始めているような状況でございます。今後ともご活用頂けたらなと思っておりますので、よろしくお願い致します。以上、答弁とさせていただきます。

議長（小川 保）

隅岡議員に申し上げておきます。次第に通告と差異が出て来ておりますので、そろそろ3番目の質問頂けたら有り難いんですが。よろしゅうございますか。2番目ですか。はい。じゃあ2番目。隅岡 美子 議員。

議員（隅岡 美子）

度々済みませんでした。2番目です。地域コミュニティの方ですよ。地域コミュニティを維持するための支援の必要性についてのお考えをお伺い致します。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員の地域コミュニティを維持するための支援の必要性についてのご質問に答弁をさせていただきます。

地域コミュニティの中心的存在であるのが自治会であります。安全で安心して快適な地域生活を送るために自治会が行う交流、防犯・防災や美化活動等は、本町においても大変重要な取組であり、自治会のような共助の取組無しでは、住みよい多度津町は作れないと考えております。そのため、自治会からの町に対する要望につきましては随時、受け付けており、受け付けた要望につきましては、町長公室から担当課に対応を依頼して要望内容の確認や対処方法の検討を行います。そして、各課からの対応について町長公室で取りまとめを行い、自治会長に回答しております。昨今、住民生活の多様化や高齢化による会員の減少、役員の担い手不足などそれぞれの自治会によって抱えている問題は様々であり、その問題を解決するためには、行政からの支援は今後も必要であると考えています。自治会がどのような支援を求めているのか町内の自治会を統括している町自治連合会と連携を図りながら、支援の方法を検討していきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

質問です。ただ今の答弁の中より質問をさせていただきます。今後、町の自治連合会と連携をとりながら、どういった支援があるかという方法を検討していきたいと考えております。ということでございます。いつ、どのような方法で検討していくのか、どういったことを検討していくのか、具体的にお示し出来るのであれば、お示しを頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

自治連合会の会議が年に3回程度ありますが、その際に、先ほども申しあげました自治会からの要望とかの内容に沿いまして、自治会で困っていることは何か、実際に会長さんされている方たちがお集まりになりますので、全体的に同じような内容のものであれば、町としてどう支援出来ればいいのかという内容について、また、検討させて頂きたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

次の質問に入ります。

高齢化が進み、自治会等の役員として働ける方も少なくなる中で地域コミュニティの維持は難しいと考えます。今後は、自治会等のデジタル化などデジタル技術を活用しての地域コミュニティの再構築について、町のお考えをお伺い致します。よろしくお願い致します。

町長公室長（山内 剛）

隅岡議員のデジタル技術を活用した地域コミュニティの再構築についてのご質問に答弁をさせていただきます。

自治会に加入していない方の大きな要因の一つに自治会役員の業務負担があります。会員の減少や役員の担い手不足が問題となっている中、役員業務の一つである回覧物等の仕分けや配布作業などの業務を効率化し負担を軽減することが問題解決の一つであり、そのためにもデジタル技術の導入は重要であると考えています。

しかし、自治会の中にはデジタルに馴染みがある方もいれば、会員の高齢化により、パソコンやタブレットなどデジタル端末の使用に不慣れな方も多くおられます。回覧物を住民同士が直接受け渡すことがコミュニケーションのキッカケになっている側面もあるため、そのような点も考慮しながら自治会のデジタル化に関するニーズは何か、何を必要としているのか整理し、他の自治体の自治会に対するデジタル技術の導入事例を参考にしながら多度津町自治連合会と今後のデジタル技術の導入についても協議していきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

先ほども最初のご答弁にもございましたように自治会役員の業務負担が大きいということで、非常に担い手不足の問題となっているということで、LINEとかアプリを使った回覧板とか、そういったものが、すごく有効だと考えております。そういったことは、今後、大変重要な課題でありますので、こういったことも、しっかりと今後、取り入れて、なるべく業務を負担出来るように、例えば、今、ここに書いとるように、やはりアナログで回覧板をお隣の家に持って行くということも非常にコミュニティの点から言えば、大変大事なことであるとは私も承知をしておりますけれども、そういったこともしながら、タブレットとか、そういったLINEとか、アプリを活用しながら、両方でしっかりと若い方の自治会も今後、増えて来



ると思うし、自治会の加入率も上がってくるんじゃないかなと、私はこのように考えて、この質問をした訳でございます。今後、また、この点を踏まえて町発展のためにしっかりと頑張っていっていきたいなと思って期待をしております。

以上で、11番、隅岡 美子の質問を終わらせて頂きます。

議長（小川 保）

隅岡議員、ちょっとお待ち下さいね。どうぞ。富木田課長、どうぞ。

健康福祉課長（富木田 笑子）

先ほど私が答弁致しました補装具助成事業の丸亀市の令和5年度の実績を3件から5件と申し上げましたが、資料がございましたので、13件でございました。訂正させていただきます。

議長（小川 保）

はい。これをもって、11番、隅岡 美子 議員の質問は終わります。